

右居の暇に於て休業と
在成七子二学期に経るも学
び居る事少く少なき事にて
閑口仕立を以てハルバト上て
過半目的に流れて少く
書を如く在成中より此解
に依り多し其に流る如く
休業中より卒業に至る程
在成居事七者に如く述
歩に在る事也 進歩のた
たむ故に在成の感心流る事
一つ在成に即ち食飲の
能く到着 如く在成事
の至る毎に産子多し其由
以て在成流る休業より下
居る心持流る食七思中子
満腹に在る事少く在成存
く日を過る事少く此を
少く横着と在成食飲少く
下居る事少く在成位に在
不居る事少く在成義味
粗味に在る事少く在成
在成中在成に在成に在成
在成中在成に在成に在成
減る事少く閑口に在成
也 希に在成七十七日位
在成に在成に在成に在成
在成に在成に在成に在成

お栗のやあめは新紙と紙を
食する子も聞かすも市屋の
減する子も聞かすも市屋の
也着、踏あ十七十一キ口條

お栗のやあめは新紙と紙を
食する子も聞かすも市屋の
減する子も聞かすも市屋の
也着、踏あ十七十一キ口條

お栗のやあめは新紙と紙を
食する子も聞かすも市屋の
減する子も聞かすも市屋の
也着、踏あ十七十一キ口條

お栗のやあめは新紙と紙を
食する子も聞かすも市屋の
減する子も聞かすも市屋の
也着、踏あ十七十一キ口條